

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、新たな荒尾市を創るための着実な一歩を踏み出すことができた1年であったと感じています。2月の市長就任後、市の戦略プランを「あらお未来プロジェクト」と定め、「子どもへの投資」「成長力の創出」「健康・長寿の暮らし実現」の3つの柱の下で各施策に取り組みました。

まず、9月議会冒頭で現在地隣接地での建設を表明しました新市民病院については、市議会並びに市民の皆さまへの説明を経て、11月の臨時議会において建設に伴う関連予算の承認をいただきました。9月には熊本大学との包括的連携に関する協定を締結し、病院経営や認知症施策の推進をはじめ、本市のまちづくりの追い風になると期待しています。市民の健康と長寿を支える新病院の早期開院に向けて全力を尽くします。

また、小学生学校給食の無償化をはじめ、学校図書館の充実や中学校教室へのエアコン設置に向けた調査、さらには、「荒尾子ど

も未来基金」の設置と活用など、地域の宝である子どもへの投資についても積極的に取り組みました。

成長戦略につきましても、競馬場跡地を活用した新たな拠点づくりを目指す南新地土地区画整理事業をはじめ、有明海沿岸道路の整備促進や道の駅の整備に向けた基礎調査など、豊かな荒尾の実現に向け、具体的に進めています。

さらに、11月には「地域エネルギーの有効活用などを中心としたまちづくりに関する連携協定」を民間企業2社と締結しました。市内に立地が進む再生可能エネルギー発電施設を中心とした電力の地産地消と、そこから展開する新たなまちづくり事業に取り組みすることで、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

本年も、直面する課題と真摯に向き合い、「住みたい、訪れてみたい、幸せを実感できるまち荒尾」を目指してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。

荒尾市長 浅田敏彦

あさだとしひこ
荒尾市長 浅田敏彦

平成30年 迎春

明けまして、おめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より市議会の運営に対し、温かいご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

昨年、地域医療の要としての新市民病院を現地の隣接地を拡張し建設することで決定し、競馬場跡地などの活用を図る南新地土地区画整理事業は整備に着手しました。また、社会経済活動に欠かせない幹線道路について、地域高規格道路有明海沿岸道路の荒尾北インターチェンジ予定地間のボーリング調査が行われ、さらに、国道389号バイパス、県道平山荒尾線・荒尾南関線バイパスの2路線が開通するなどまちづくりが着実に進んでいます。

ここ数年、周辺地域で発生した相次ぐ自然災害は、甚大な被害をもたらしました。熊本地震などを教訓として、防災・減災対策の強化を図り、市民が安心・安全に暮らせるまちづくりの推進に市議会としても努めていきます。一方、少子化対策、超高齢

社会への対応、社会保障問題をはじめ、公共施設の老朽化対策など、本市では、まだまだ多くの重要課題が山積しています。

市議会は、議員18人全員がそれぞれの課題を市民の皆さまと共有し、課題解決に向かっての施策を検討し、議会という場を通じて二元代表制の下、しっかりと役割を果たしたいと考えています。

また、平成25年に制定した議会基本条例に基づき、本会議のインターネット配信、議会報告会、夜間議会の開催を継続し、開かれた議会の推進に努めます。今後も引き続き、さまざまな方法で議会活性化に取り組んでいきます。

本年も、市民の皆さまが健康で、安心して暮らし続けることができるまちづくりに向けて努力してまいります。どうか、本市議会の活動に対しましてご理解を頂きますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

荒尾市議会議長 小田龍雄

おだたつお
荒尾市議会議長 小田龍雄